

マジの就労支援

～社訓「やってみよう！」でホントに色々やってみた！～

○井上 渉（就労移行支援事業所INCOP京都九条 代表）

○森 玲央名（就労移行支援事業所INCOP京都九条）

1 概要

就労移行支援事業所INCOP京都九条は、京都駅から徒歩10分に位置している。弊社は、私の京都市立支援学校での進路指導主事としての経験を活かし2023年2月に開所した事業所である。社訓に「やってみよう！」を掲げ、座学も用意しながら、それ以上に生の経験・体験の機会を重視した「超実践型トレーニング」を利用者に提供している。また、就労だけでなく、生活、余暇を含めた「WorkとLifeのINCOP」を目指し、日々サポートしている。

開所し1年以上経過し、弊社の多岐にわたる「やってみた！」を紹介するとともに、その中での利用者の変化・育ちについて、「超実践型」と関連させながら考察したい。

2 超実践型トレーニングの軌跡

(1) INCOPのカリキュラム

弊社は、ワーク・ライフ・レジャー・体づくりを意識しながら毎月カリキュラムを編成している。その中でも地域の企業や団体での就労体験「ミニ実習」を大きな軸に個別の支援を実施している。

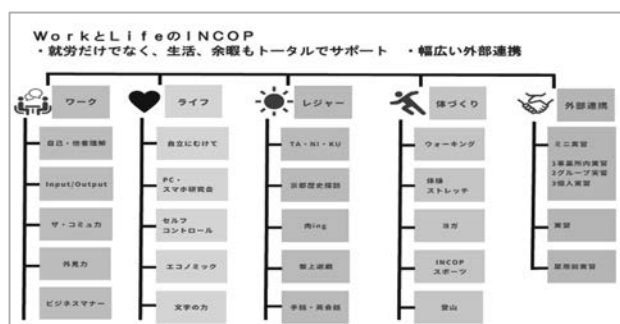


図1 INCOPのカリキュラムの考え方

(2) 多岐にわたる「やってみた！」

ア ミニ実習

ミニ実習では、地域企業・団体で実際に作業しながら働く基礎基本を学ぶ場であり、作業適性や社会性等のアセスメントをはかっている。雇用を前提とせず、利用者の自己理解を助けることを大きな目的とし、実習先にもその趣旨を理解していただき協力いただいている。利用者の実態に合わせ週1～4回、継続して設定している。



ミニ実習の様子 多様な業種で実習している

表1 ミニ実習先 一覧

	ホテルリネン ホテル共用部清掃 製造業 寺院内清掃		
	ホテル客室清掃(2社) 校内清掃 病院構内清掃 帳合作業		
	製本作業補助(2社) 食器洗浄 軽作業(シール貼)(2社)		
	フリーペーパー折込・配布 物品搬入・組立 飲食仕込み		
月	ミニ実習A		
	ミニ実習B		
火	ミニ実習C		ミニ実習D
	ミニ実習E		
水	ミニ実習A	午後休講	
	ミニ実習F		
木	ミニ実習C		ミニ実習D
	ミニ実習G		ミニ実習H
	ミニ実習I		
金	ミニ実習B		
	ミニ実習I		
	ミニ実習C		

図2 ミニ実習 1週間の実施の様子（事業所全体）

イ 島津との連携

株式会社島津製作所とは、実習のみならず、スポーツを通じた連携、特に島津製作所ラグビー部「SHIMADZU Breakers」（以下「Breakers」という。）との連携に取り組んでいる。Breakersとは、2023年秋シーズンから「レッズ」との呼称で、ホームゲームの会場設営・撤収、受付業務だけでなく、試合中の選手の水分の補充もし、チームの一員として活動している。チームと連携を取り、利用者間でも連携を取り、協働する力が高まる場面になっている。



Breakersとの連携の様子 準備・片付けと水分補充

ウ ボランティア

前述ミニ実習の一環で、地域行事のボランティアにも参加している。以下はその一例である。

- ・京都マラソン2024
- ・KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭
- ・祇園祭ごみゼロ大作戦2024
- ・京都市都市緑化協会（雨庭清掃管理）



ボランティアの様子 京都マラソン・祇園祭でのごみの分別回収

エ 余暇

多肉植物の寄せ植えや筋トレ、調理、DIYなど事業所内

でできることから、花見、紅葉、登山、スポーツ活動・大会への参加といった活動まで、幅広い活動を通して、人生の幅を広げることに繋げていきたいと考えている。



余暇の様子 紅葉・スケート・スポーツ大会（ポッチャ）

(3) 就労実績

2024年7月末現在、6名の方が就職している。業種も多岐にわたり、体験活動の幅の広さに関係していると考えている。うち1名は3カ月程度で退職したが、他の5名については勤務を継続できている。

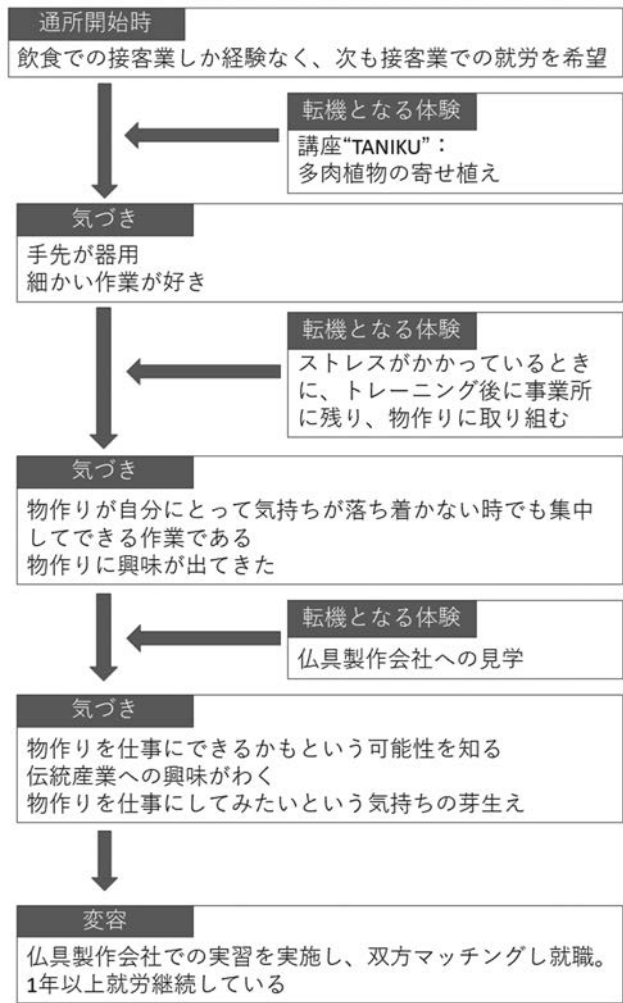
表2 就労実績（2024.7末時点）

No.	業種		サービス利用期間	入社日	勤続月数
1	雑貨販売	接客	6ヶ月	2023年9月	10
2	寺社仏閣、建築、機械加工	加工	5ヶ月	2023年8月	11
3	ホテル	清掃	6ヶ月	2023年8月	11
4	食品調理	製造補助	9ヶ月	2023年12月	退職
5	非鉄金属スクラップ卸売業務	リサイクル	12ヶ月	2024年5月	2
6	教育	労務補佐員	13ヶ月	2024年6月	1

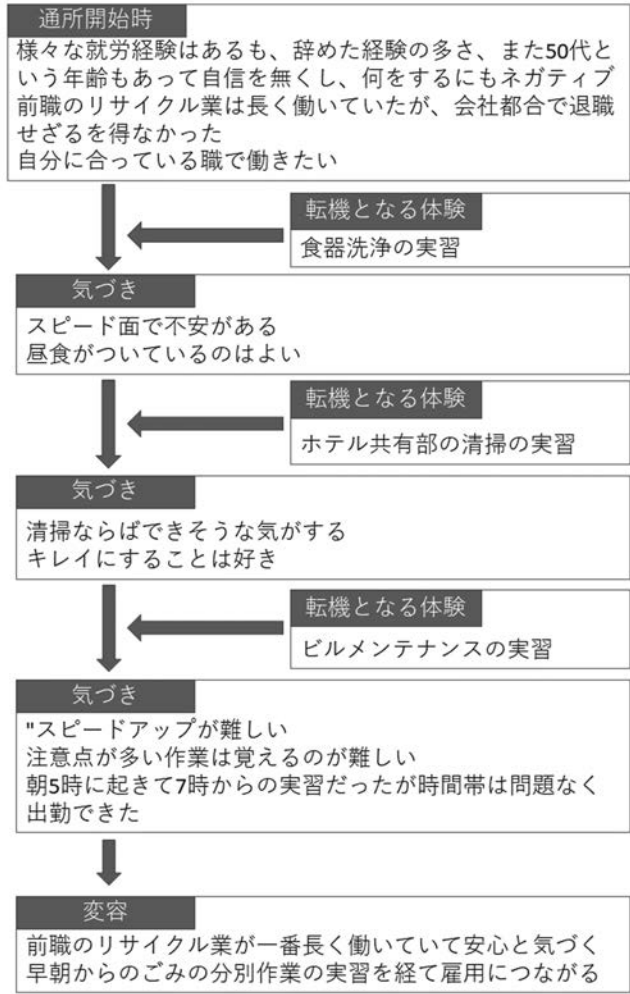
3 利用者ケース

以下2ケースを「通所開始時」「転機となる体験」「気づき」「変容」に着目し紹介する。

(1) 新たな長所に気づいたAさん



(2) 自信がない中で自分のできることを見つけたBさん



4 今後について

今後については以下の3点を意識しながら、より良いものにしていきたい。

・体験機会の拡充

体験機会、回数はもちろんのこと、利用者一人ひとりのニーズに合った機会を拡充していくことは今後も継続して取り組んでいく。

・体験を「本人の気づき」につなげる取り組みの強化

体験だけでは、障害特性もあり、自分の学び、成長に繋がられないことが多い。その体験が「なぜ」「どのように」と言語化し、対話しながら振り返ることで次につなげていくことが求められる。

・アフターフォローからの分析とフィードバック

就労者が増えていく中で、つまずきも増えてくることが予想される。そのつまずきを現行のカリキュラムの改善につなげていく必要がある。

【連絡先】

井上 渉
就労移行支援事業所INCOP京都九条
e-mail : incop.inoue@gmail.com



INCOP0808